

(11月27日)

環境保全と農村資源

秦 隆 夫

本報告では、環境保全を念頭に置いた農村振興を考える上で「資源」として活用できる事項や考え方およびその活用に当たっての留意点について私見を紹介した。

(1) 農村振興に係る基本的な取り組み姿勢

農村には農家を中心としつつも他産業従事者や彼らの家族など農業以外の知見・体験を有する幅広い住民が存在する。また、情報インフラの整備が進む中で、農業に留まらない多数分野の情報を活用し易い状況にある。農村問題の解決・改善にとって、非農業部門との人的・情報的な相互交流が肝要である。すなわち、農村を農業者のクローズドシステムでなく、多様な分野・住民の力を活用したオープンシステムとして捉える必要がある。

(2) 活用すべき農村資源の構成要素

農村資源の活用要素として①物質（土地、生物、生産・生活用施設機械など）、②人、③

かね、④情報、⑤技術を取り上げた。そして、各資源の活用上の留意点について、ストックとフロー、ハードとソフト、法律・制度、自然と人間および人間と人間、などとの関係を、環境保全の視点を踏まえた物質循環モデルなどを例に提案した。とくに重視すべき要素として、自然条件を踏まえた地域的土地利用方式、家畜排泄物等産業副産物の資源化利用法、高度情報処理技術を統合利用した資源管理法、農村振興を担う人的資源の存在あるいは育成を強調した。

以上のような話題提供に対して、①空間や農村の文化・伝統も資源として考える必要がある、②例えば、流域単位による環境保全や購買力など個々の農村だけでなく広域的に農村地域を捉える必要がある、③資源の利用可能性をつぶさに解析するのは現状では困難であり標的を絞る必要がある、④多くの資源を従属変数としつつ地域に適合した最適解を求められる手法開発が必要である、などの意見が出された。